

国土交通省 東北地方整備局との 意見交換会

広報委員長 高橋 克実

東北地方整備局と当協会の意見交換会が、平成24年1月24日(水)14:00～15:30に東北地方整備局大会議室にて開催されました。その内容を以下にご報告いたします。

「出席者」

東北地方整備局からは企画部長 川嶋直樹様、技術調整管理官 伊藤友良様、技術調整開発調整官 齋藤廣見様、河川情報管理官 葛西敏彦様、道路調査官 林崎吉克様、技術管理課長 加藤信行様、技術管理課長補佐 槻山敏昭様の7名がご出席されました。

当協会側からは早坂理事長、奥山副理事長、大友理事、高野理事、佐々木理事、坂本理事、高橋理事、奥山理事、菅野理事、西山事務局長、村上事務局長代理、高橋の12名と記録係として真坂広報委員、羽生田広報委員、大沼広報委員が出席しました。



ご臨席いただいた東北地方整備局各位

「主な内容」

槻山技術管理課長補佐に司会をご担当していただき、川嶋企画部長、早坂理事長に開会のご挨拶をいただいた後、高野理事が当協会の主な活動内容を紹介し、意見交換

に入りました。意見交換は以下の議事に沿って行われました。

- ①地質調査技術の有効活用について(防災・減災及びコスト縮減への貢献)
- ②地質調査の適切な発注について
- ③低価格入札について
- ④その他

地質調査技術の有効活用については、防災・減災の観点において、当協会は特に東日本大震災を経験した東北地方の各地域の地盤状況に精通し、いわゆる地質リスクを熟知していることをアピール。本格復旧に向けた土木構造物などの建設プロジェクトに対し、計画段階から地質調査技術者の参画、施工段階への地質調査技術者の参画促進にむけ、JV発注やそれ以外に門戸を拡大できないかを望みました。併せて、地質リスクマネジメントを管理する「地質アドバイザー」制度の創設を検討していることなどを紹介しました。

地質調査の適切な発注については、地質調査業務が分離発注されている状況に感謝するとともに、現状の発注・入札状況がどのような内容(件数、比率など)となっているか、今後の本格的な復興にむけて予定される事業や予算等がどのような内容・規模が見込まれるかなどをお聞きしました。

低価格入札については、昨年来の発注方式なかで「総合評価方式による発注形態に少しずつスライドする」と方向付けされたなか、現状の低価格入札契約発生状況については、大幅にその発生率が下降したことをお聞きしました。

その他では、積算関係、受注機会の確保

.....

に関しての地元企業の実績要件緩和などについてフリートーキング形式で前向きなご見解とご意見をいただきました。

併せて、宮城県土木部との災害協定にもとづき実施した地震後の土砂災害危険箇所緊急点検、東北の地盤情報共有システムとして立ち上がった「みちのくGIDAS」運用への積極的な参画、来たる2/23(木)に主催する「東日本大震災に関する技術講演会」などについて協会活動を紹介した後、奥山副

理事長による閉会挨拶で閉会した。

「謝辞」

公務多忙の中、当協会との意見交換会を快く承諾され、司会や会場の提供、資料作成などの多大なご協力をいただいた東北地方整備局の関係各位に厚く御礼申し上げます。また、記録・写真係を担当された真坂委員、羽生田委員、大沼委員の広報委員各位に心より感謝いたします。



意見交換会の様子